

キリストへの時間

「キリストへの時間」協力委員会報

安らかに去らせてくださる— 2020年待降節の黙想—

2020年も残すところ、あとわずかです。なんという一年を、わたしたちは過ごしたことでしょう。年の初めに、新型コロナウイルス感染症のために日常がこのように変わってしまうことを予期した者がいたでしょうか。まさしく今年世界は「たとえ死の陰の谷を行くときも」という詩篇の言葉（23篇4節）を思わせる大きな試練に見舞われているのです。

ヨーロッパ中世の修道院ではメント・モリという挨拶が交わされていたそうです。これは直訳すれば「死を記憶せよ」ですが、「汝、死すべき存在であることを記憶せよ」の意味で使われ、転じて生かされている今日を大切に歩むことを互いに確認しあうものでした。誰しも人が死ぬことを知っていますが、それは知識としてのことで、自分や親しい者の死はいつも想定外ですし、死について考えることを遠ざけているのが実際でしょう。そうした意味で新型コロナウイルス感染症は分かりやすく、わたしたちに、人は死ぬものであるという現実をつきつけたと言えます。人々が不安に駆られるのも無理はありません。

ところで、ルカによる福音書2章に登場するシメオンという老人は、「主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けて」いました。そのシメオンが神殿の境内で、つまり、神さまを礼拝する場所で、マリアとヨセフの腕に抱かれる幼子イエスを見たとき、「主よ、今こそ、あなたは、お言葉通り、この僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。」と感謝の声をあげました。それから「これはすべての民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光、あなたの民イスラエルの誉れです」と神さまを讃美したといえます。シメオンは主イエスと出会い、幼子の中に自分自身の終わりを見たのです。普通、わたしたちは終わりを恐れ、避けて、見ようとはしませ

「キリストへの時間」協力委員会 委員長 横山良樹
んが、このわたしの終りをつかさどる方、わたしを裁くことのお出来になる方が、このように小さな幼子の姿で来られたということに、神さまの大きな配慮を見て取ってシメオンは喜んだのです。神さまが、こんなにも身を低くして、わたしのところに来て下さったということが、シメオンには格別に嬉しいことであったのです。このことはイエスさまと出会い、この方が救い主であることが分かれば、もうわたしたちは安らかに死んでゆけるということです。真実に、自分を委ねることのできる相手と出会ったからです。「たとえ死の陰の谷を行くときも災いを恐れませんが、あなたが共にいてくださるからです」と告白することの出来る良い羊飼い、イエス・キリストが、わたしの主となつて下さったからです。ここに聖書の告げる平安の礎があります。

教会の暦では、11月29日から待降節第一主日が始まり、この日から新年を迎えています。待降節はアドベントとも呼ばれ、イエス・キリストのご降誕を待ち望む備えの期間です。アドベントの意味は「到来・再臨」です。世の中が冬至にむけて闇を深くするなか、教会ではアドベントクランツの蝋燭に一本ずつ火を点しながら、世の闇を照らす真の救い主の到来を待ち望みます。コロナ禍のなかで迎える今年のクリスマスは例年と同じように過ごすことは困難でしょう。当たり前と思う日常は、当たり前ではなく恵みでした。しかし非日常のなかで迎えるクリスマスだからこそ、幼子となつて来て下さる救い主と出会い、わたしたちのために独り子を贈られるほどに世を愛して下さった神さまの御心を知るならば、シメオンと同じ告白をすることが許されるでしょう。世界にメント・モリがつけられている今、ラジオ放送「キリストへの時間」は、この憩いと平安にあなたを導く招きとして用いられることを願っております。

「問いかけの声」

金城学院中学校宗教主事 後藤田典子

神である方、天を創造し、地を形づくり造り上げて、固く据えられた方 混沌として創造されたのではなく 人の住む所として形づくられた方 主は、こう言われる。わたしが主、ほかにはいない。

わたしは隠れた所で、地の闇の所で 語ったことはない。ヤコブの子孫に向かって 混沌の中にわたしを求めよ、と言ったことはない。わたしは主 正義を語り、公平を告知する者。

国々から逃れて来た者は集まって 共に近づいて来るがよい。偶像が木にすぎないことも知らずに担ぎ 救う力のない神に祈る者。

意見を交わし、それを述べ、示せ。だれがこのことを昔から知らせ 以前から述べていたかを。それは主であるわたしではないか。わたしをおいて神はない。正しい神、救いを与える神は わたしのほかにはない。

地の果てのすべての人々よ わたしを仰いで、救いを得よ。わたしは神、ほかにはいない。

(イザヤ書 45 章 18-22 節)

おはようございます。新たな週の最初の朝です。そう思うと、体の中に力が沸き上がってくるように感じます。その一方で、社会を覆う得体のしれない新型コロナウイルスを恐れ、すっきり明るく新しい週へ踏み出せないわたしです。皆様は、どのような思いで今朝をお迎えでしょうか。

当たり前の生活が崩れ、繋がりや関係、動きの方向や範囲が、思いがけない変化を見せているので不安になりますね。学校に務めるわたしも、悪戦苦闘が続いています。3月の卒業式・4月の入学式などは願い通りにいかず、新年度をスタートさせる計画は、幾度も変更が繰り返され中止が続きました。授業再開の目途も立たず疲弊しました。5月下旬から徐々に準備登校となりましたが、生徒や保護者、教職員間でもインターネットを用いた連絡手段を取るように変化し、新たな様式や遅れを取り戻そうとする焦りも加わって、生徒のみならず教職員も右往左往、不慣れでした。本校だけでなく、広く、学校教育は混沌として手探り状態と言えましょう。その現実直面して、わたしは改めて

教育の在り方・意味を問うようになったのです。

ところが、ひとまず学校生活が始まると、わたしは、問う側にいるのではなく問われる側にいる、と感じるようになりました。

キッカケは「なぜ、と問わない」というブックレットです。ケセン語に聖書を訳された大船渡の医師・山浦玄嗣先生が、9年前の東日本大震災後にカトリック成城教会（東京）で語られた講演です。他の用事のために、久しぶりに読み直していたのです。

かつて、わたしは、判りやすい先生のお話を勤務先の中学生にもお聞かせいたしたい、とお願いしたことがありました。ご多忙にも関わらず、先生は朗らかに「診療所がお休みの日なら名古屋に行ってあげるよ。」と即答されました。心が躍り上がりました。しかしながら、先生のお休みは日曜日だけです。結局、本校での講演は不可能でした。そのやり取りの電話口で、先生はおっしゃられたのです。「あなたに生徒がいるように、わたしにも患者がいる。休むことはできないよ。与えられている務めは果たさないといけない。」

先生の講演文を読み直しながら、先生の声が聞こえたように感じました。「なぜ、とつぶやき、どうしたらいいのか、と問いかけてばかりいないで、今与えられている務めに向かうべきではないか。」

ブックレットを閉じて開いた聖書に、偶然とは思えないイザヤ書の一言がありました。「わたしを仰いで、救いを得よ。わたしは神、ほかに神はいない。」今まで何度も読んできた御言葉です。にもかかわらず、ドキリとしました。

どんな事があっても、仰ぐべき神を知らされていないか。どうしたらよいのか解らず、何の策も打てず、ため息ばかりの毎日でも、神を仰いで救いを得られるではないか。

心が定まり、深い安心感を得ました。その時、「どうかしたのかい？」と穏やかに問いかけてくださる神様の声を感じたのです。顔をあげて、神様と共に新たな学校生活へ踏み出すことができました。感謝でした。

現実的には、わたしたちの社会・世界が背負ってい

る課題は解決されてはいませんし、教育現場もあたふたしています。明るい未来へ元気澁刺と向かう、という訳にはいきません。

そのような中にあってもなお、神様を仰いで救いを得る約束は、わたしたち一人ひとりにあるのです。主なる神様はいつも共にいてくださいます。「わたしは神」とおっしゃる力強い方を全面的に信頼して、それ

ぞれに与えられている為すべき務めを地道に果たしていきたいと思います。わたしたちがいる世界は混沌として創られたのではなく、人の住む処・生きる処として神様が創られたことをシンプルに100パーセント信じて、新たな一步を踏み出してまいりましょう。

(6月21日放送)



「献金に感謝して」

「キリストへの時間」会計担当 青山昭一郎
(日本キリスト改革派犬山教会信徒)

今年もアドベントを迎える季節となりました。コロナ禍にありますが、皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。

いつも「キリストへの時間」を覚えて祈り、お支えいただき感謝致します。キリストへの時間の放送は、1952年10月から開始され、今年2020年で放送開始68年を迎えました。これだけ長い間放送を続けてこられたのは、皆様の祈りと献金、アナウンサーと説教して下さる方々が与えられているからです。本当に感謝です。

「キリストへの時間」の費用は、一月の電波料、30万円、年間360万円です。その他、会報印刷費、15万円、通信費、5万円、郵便振替手数料、2万円程が必要になります。今年から振替払込通知票を受け取る度に、110円の振替通知料金が掛かるようになりました。全体では年間約400万円の献金が必要となります。金城学院、名古屋学院、岐阜済美学院からの献金をいただき、教会からの献金と個人献金で賄われております。献金の特徴としまして、教団は個人献金が主であり、改革派は教会からの献金が主となっています。

以前は、年間の献金が不足し、担当者が一時立て替えたこともあったとお聞きしています。「キリストへの時間のための献金のお願い」がだされたこともありました。緊急事態であったと思います。

「キリストへの時間」協力委員会で100万円程の「基金」を持つことが出来ればと話し合いました。100万円の基金があれば、3カ月の放送継続が保証されますが、それでも3カ月です。現在の「基金」

は、50万円です。引き続き協力委員会で協議して行きたいと思っています。今もギリギリの状態で推移していますが、今年はコロナ禍もあり厳しい状況です。必要を満たして下さる主に委ねて、これからも歩ませて戴きたいと思っています。

私たちは置かれた所で、主に仕えて行くことが求められています。

イエス様ご自身を、私の喜びとすることこそ、新しい私たちの生き方であるべきです。私の罪のために十字架にかかってくださったイエス様は、全世界の創造主であり、この世界を、「新しい天と新しい地」へと造り替えてくださる方です。

私たちが、どんな状態にあっても、神様を仰ぐとき、そこには輝かしい出発があります。神様は小さな者を祝福し、それを用いて御業をされるお方だからです。

お一人おひとりが「キリストへの時間」の放送をお聞き下さり、心に覚え、祈り始めて下さること、そのことの意味は決して小さくありません。神様のご支配がそのような小さなところから始まって、やがて大きく成長してゆくことを願っております。

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

(コリントの信徒への手紙二 4章18節)

「radiko(ラジコ)の聴き方」(レスポンス担当より)

前回この欄で、インターネットラジオ「ラジコ」を通して放送を聴いた全国の方々からお便りがある旨を書きましたら、「ラジコ」についてもう少し詳しく教えてほしいとの声をいただきました。協力委員会でもネットで当放送が聴けることをもっとアピールしていこうとの協議がなされました。そこで今回はラジコの聴き方を紹介します。

パソコンで聴く場合は「ラジコ」で検索、<radiko.jp>のWEBサイトをクリック。スマホやタブレット<iOS / Android>の場合はアプリをダウンロードします。日曜朝6:30にCBCを選択すると放送を聴くことができます。(聴き逃した場合でも1週間は

タイムフリー機能で番組をいつでも聴けます。その際は「検索(さがす)」欄に「キリストへの時間」と入力すると、当番組ページへ行け、再生をクリックするとその週の放送を聴けます。)ここまではラジオと同じように東海地方の方はすべて無料です。プレミアム会員(月額350円)になるとエリアフリー機能を使えるようになり、地域をまたいで全国のラジオ放送を聴くことができます。この機能で他の地域からも当放送宛にお便りが届いているのです。

「イエスは言われた。『全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。』」(マルコ16:15)

「キリストへの時間」協力委員 山田詩郎



「キリストへの時間」放送予定 2021年1月～6月

1月

3日 竹澤芙美子(日本キリスト改革派長久手教会信徒)
10日 竹澤芙美子(日本キリスト改革派長久手教会信徒)
17日 三田村苗美(日本キリスト改革派犬山教会信徒)
24日 三田村苗美(日本キリスト改革派犬山教会信徒)
31日 伊藤穂波(日本キリスト改革派四日市教会信徒)

2月

7日 吉松 純(金城学院大学宗教主事)
14日 吉松 純(金城学院大学宗教主事)
21日 松谷 暁介(金城学院大学宗教主事)
28日 松谷 暁介(金城学院大学宗教主事)

3月

7日 山田詩郎(日本基督教団名古屋北教会牧師)
14日 山田詩郎(日本基督教団名古屋北教会牧師)
21日 大住 元(日本基督教団豊山教会牧師)
28日 大住 元(日本基督教団豊山教会牧師)

4月

4日 中根 汎 信(日本キリスト改革派教会引退牧師)
11日 中根 汎 信(日本キリスト改革派教会引退牧師)
18日 西堀 則 男(日本キリスト改革派中津川教会牧師)
25日 西堀 則 男(日本キリスト改革派中津川教会牧師)

5月

2日 田口 博之(日本基督教団名古屋教会牧師)
9日 山本美保子(日本基督教団金城教会伝道師)
16日 山本美保子(日本基督教団金城教会伝道師)
23日 辻 秀 治(日本基督教団桑名教会牧師)
30日 辻 秀 治(日本基督教団桑名教会牧師)

6月

6日 沖崎 学(金城学院高等学校宗教主事)
13日 沖崎 学(金城学院高等学校宗教主事)
20日 赴任予定者(金城学院中学校宗教主事)
27日 赴任予定者(金城学院中学校宗教主事)

「キリストへの時間」協力委員会 編集発行人 横山良樹

郵便振替 00880-1-70404・キリストへの時間

キリスト教や聖書についてご質問のあるかた、この放送についてのご意見ご感想のあるかたは、以下にお便りください。また、ご希望の方には新約聖書を無料でお送りいたします。

〒461-8691 名古屋東郵便局私書箱170「キリストへの時間」まで

CBCラジオ「キリストへの時間」(1053kHz) 毎週日曜日 朝6時30分～6時45分放送